技能競技大会を活用した 人材育成の取組マニュアル

洋裁職種編







はじめに

技能五輪全国大会をはじめとする技能競技大会は、国内の青年技能者の技能レベルを競うことにより、青年技能者に努力目標を与えるとともに、技能に身近に触れる機会を提供するなど、広く国民一般に対して、技能の重要性、必要性をアピールし、技能尊重気運の醸成を図ることを目的として実施されており、近年参加選手数が増加傾向にあるなど、活性化を見せています。

この理由として、技能競技大会が単に技能レベルを競い合う大会であるだけでなく、大会参加に向けた訓練を通じて技能レベルはもとより、段取り構成力、応用力、判断力、忍耐力など、技能者として必要な人格形成にも大きな影響を及ぼし、将来、ものづくり立国日本を支え、日本のマザー工場機能を維持するのに必要な中核技能者の育成に大きな役割を果たしていることが挙げられます。

しかしながら、技能競技大会に出場するには各都道府県で開催される地方予選を勝ち抜き、決められた大会会場に集まる必要があるため、会場から遠方の企業や、訓練方法のノウハウを持たない企業にとってはハードルが高いことは否めません。

このため厚生労働省では、「ものづくりマイスター」が企業、職業訓練施設、工業高校等の若年者に対して、技能競技大会の競技課題等を活用した実技指導等を行うことにより、若年技能者を育成する新しい事業を創設しました。

「技能競技大会を活用した人材育成の取組マニュアル」は、「ものづくりマイスター」はもとより、企業、職業訓練施設、工業高校等の関係者が、技能競技大会の競技課題等を活用した人材育成等を理解し、訓練計画の策定、実技指導等を行う際に使用されることを想定して作られており、製造、建設業関係の職種について、職種共通編及び職種別編の2種類から構成されています。

職種共通編では、①技能競技大会の競技課題等を活用した訓練の特徴及び人材育成の効果、② 技能競技大会の競技課題等を活用した訓練の取組方法の概要、③技能競技大会及び技能検定の実 技課題の入手方法などが説明されています。

職種別編では、①競技課題の概要、②競技課題が求める技能の内容、③採点基準、④技能習得のための訓練方法、⑥課題の実施方法(作業手順)、⑦期待される取組の成果などを説明しています。

これらのマニュアルのほかに、技能競技大会の競技課題等を活用した訓練による人材育成の具体的な取組について、企業、教育訓練機関での事例を紹介した「好事例集」も作成されています。 そちらも参考としてください。

最後に、ご多忙の中、本マニュアル作成にご協力いただいた以下の団体の皆様に心から感謝申 し上げます。

公益社団法人 全日本洋裁技能協会 一般社団法人 日本洋装協会

【実演協力】

和洋学園専門学校



目 次

1	このマニュアルの使い方	1
2	洋裁職種に求められる技能 ————	2
(2)	競技課題の概要) 材料・使用工具類) 課題条件) 製作物) 大会の様子	3
(1) (2) (3) (4)	競技課題が求める技能の内容) 地直し) しるし付け) 布地の裁断) 縫製・アイロン) 仕上げ	<i>6</i>
(2)	採点基準)採点項目及び配点)採点方法)大会の成績結果	8
(2) (3) (4) (5) (6)	技能習得のための訓練方法) 課題で必要になる技能要素) 訓練のポイント) 課題への対応) 競技時間内に課題を仕上げるためには) 技能要素取得カリキュラム例) 訓練方法例) 指導方法例	11
(2) (3) (4) (5)	課題の実施方法(作業手順) 準備地直ししるし付け布地の裁断縫製・アイロン仕上げ	14
8	期待される取組の成果 ――――――――――――――――――――――――――――――――――――	72

巻末資料

第 51 回技能五輪全国大会「洋裁」職種 競技課題 一式



1 このマニュアルの使い方

この職種別マニュアルには、技能五輪全国大会の競技課題や採点基準(公開が可能な部分)の 他、競技課題の具体的な実施方法(作業手順)や競技課題を通して培った技能を現場でどのよう に役立てるかのヒントとなる事例等を記載している。

特に、「課題の実施方法(作業手順)」については、課題作製の作業手順を写真や解説で紹介し、 現場でスムーズな実技指導が行えるよう配慮している。しかしながら、そもそも技能五輪全国大 会の競技課題は、技能検定1級レベルの技能を必要とするだけでなく、多くの技能要素を含んで いること、限られた時間内で完成させなければならないこと等から、受講者によっては、短時間・ 短期間の訓練で課題全てを完成させることは難しいと考える。

本マニュアルの利用にあたっては、訓練時間・訓練期間等を考慮の上、受講者の技能レベルに合わせて必要な箇所(特定の作業や一部部品の作業手順等)を利用されることをお勧めする。

本マニュアルを参照し、若年者に技能を身につけさせる指針として活用願いたい。

次ページ以降の各項目の記載内容の概要は以下のとおり。

	項目	概要
2	洋裁職種に求められる技能	競技に限らず、洋裁職種に携わる技能者が実務上必要 となる技能について、一般論を掲載。
3	競技課題の概要	本マニュアルで取り上げる競技課題の概要。競技では、何を材料に、何(課題条件)を手がかりにして、何(製作物)を作るのかについて掲載。
4	競技課題が求める技能の内容	作業手順を勘案しつつ、競技課題が求めている具体的な技能の内容(要素)について列挙するとともに、それぞれについて求められる技能レベルについて掲載。また、競技課題を制限時間内に仕上げるポイント、参加者・指導者のコメント等を紹介。
5	採点基準	どこを採点対象とするのか等、採点基準や評価方法に ついて、今後の大会運営に支障を来さない範囲で掲 載。合わせて実際の大会結果についても掲載する。
6	技能習得のための訓練方法	先に記述した技能要素を習得するための訓練方法の一例 について掲載。
7	課題の実施方法(作業手順)	技能五輪で優秀な成績を収めた企業等の事例。 技能のポイント、具体的な課題作製の手順、取組・作 業のポイント等を紹介。
8	期待される取組の成果	技能五輪で優秀な成績を収めた企業等の事例。 競技課題を用いた訓練等を行う目的や期待する成果等 について紹介。

2 洋裁職種に求められる技能

ビジネスや日常生活の場から結婚式などの各種パーティーの場まで、場面に応じて、また季節や昼夜に応じて、様々な素材、色、デザインの婦人服が、女性の個性や魅力を引き立たせている。 洋裁職種とは、このような美しさ、心地よさ、機能性などを兼ね備えた婦人服をオーダーメードで作り上げる高度な技能が求められる職種である。

時代の変化とともに、素材、色使い、デザインは絶えず変化し続けるため、この職種には、そのような変化に柔軟に対応していくことができるよう、素材に応じて、採寸、裁断、縫製などの全ての工程ごとに的確な作業ができるような確かな技能と創意工夫が求められる。

洋裁職種に求められる技能は、大きく次の6つの技能に分かれる。

(1) 採寸

基本的な採寸として、背丈、袖丈、股上、股下、背肩幅、胸囲、胴囲、腰囲などが必要となる。それぞれの正しい採寸ができる技能。

(2) 型紙作り

型紙は、正確に採寸した寸法を元に作成するが、洋服作りにとっては基礎中の基礎となる 技能である。型紙の切り方が雑になると、洋服は綺麗な形を作り出すことができず、サイズ などが合わなくなってしまうことがあるので、丁寧に切ること。

(3) 地直し

衣服の形崩れを防ぐために、裁断の前に布目を正したり、耳のつれを伸ばしたりすることで、でき上がった後、縮まないよう、あらかじめアイロン等で処理をする。

(4) 裁断

縫い代の取り方、地の目を通したしるしの付け方、型紙の押さえ等の作業からロータリーカッターやはさみを使って布地を裁断する技能。

(5) 縫製(手縫い、ミシン)

左右対称に縫製できるか、いかに正確に速く縫製できるかなど、さまざまなテクニックが 必要になる。

(6) アイロン掛け

平面な布地をアイロンで立体的にするために布地を伸ばしたり縮めたりする「クセ取り」、 布地のクセをとることによって縮みこませ立体的にする「いせ込み」は、平らな布地を体の 線に合わせたカーブを出す洋服においては不可欠な技能。力の入れ方がポイント。

3 競技課題の概要

(1) 材料、使用工具類

【支給材料】

表 地 : ウール地 1.5m
 裏 地 : キュプラ 1.3m

③ 接着芯 : 1m

④ ボタン : 2.2cm幅 4個

糸 : ミシン糸・手縫い糸・穴糸

肩パッド : 厚み 1cm 1組 ⑤ テープ : 1cm幅 3m

⑥型紙:縫い代なし、でき上がり寸法

【使用工具類】

ミシン

ポータブル職業ミシン、ミシン針、ボビンケース、ボビンなど

② 工具類

アイロン (5号~6号)、人台 (標準体型の中寸)、大まん、袖まん、小うま、文鎮など

③ 型紙

前身ごろ、前脇、後ろ身ごろ、後ろ脇、見返し、表衿、裏衿、ポケット、外袖、内袖

④ 裁断・縫製に必要な用具類

裁ちばさみ、ものさし類 (カーブ尺、定規、メジャー等)、筆記用具類 (チャコ・鉛筆・ 消ゴム等)、糸類 (ミシン糸、手縫い糸、しつけ糸等)、敷布・あて布、その他の道具 (ル レット・縫針・目打ち・まち針・ステッチ定規・小ばさみ類・ドライバー・霧吹き等)









(2) 課題条件

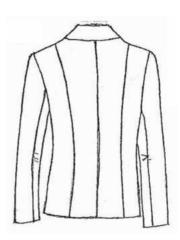
競技は、課題作製を10時間(1日目 7時間、2日目 3時間)で行う。 競技前日に生地を支給し、競技開始前にパターンを配布する。

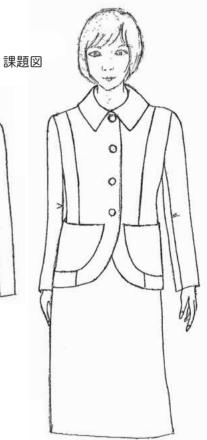
・仕様

- ①上衣は与えられた人台にフィットするように製作する。ただし、人台は同一形である。
- ②ボタンホールは、玉縁穴とする。
- ③ 袖裏は手まつりとする。
- ④ その他は、ミシン仕上げとする。
- ⑤ ポケットは中縫い仕上げとする。
- ⑥ 残布は、自由に使用してよい。
- ⑦糸通しは、競技時間内に行う。

・注意事項

選手間の工具類の貸借は認めない。





(3) 製作物

女性物ジャケット



(4) 大会の様子





・ 競技選手の感想

上中選手…2回出場し、1回目は敢闘賞、2回目で金賞を受賞した。先輩がいたので安心していられたため、2年とも緊張はしなかった。思っていた以上に順調に作業ができた。とにかく丁寧にしたことで、制限時間ぎりぎりでした。

古閑選手…4回出場して成績は順調(敢闘賞、銅賞は2回、第51回は銀賞)に 上がっていったが、4回目はやはりプレッシャーがあり、金賞に 届かなかった。抽選で端の場所になり、観客が近かったので余 計緊張してしまった。

4 競技課題が求める技能の内容

今回の課題は、衿元を浮かせたシャツカラーのジャケットである。前後ろ身ごろのプリンセスラインの縫製とクセ取りのアイロン使いが、シルエットを出すために重要。前端は、裾が大きくカーブし、それに沿って付けるポケットも大きく丸く、中縫い処理がポイント。さらに前中心位置でウィングさせる衿の付け方も重要である。手早く、一つ一つ丁寧に仕上げることが大きなポイントになる。どれも難度が高く、全体像を把握して、手順よく、個々の作業を進めるという、日頃の修練の成果が問われる。

(1) 地直し

生地は通常縦横の糸を織って布にしているが、いろいろな原因でまっすぐだった繊維がゆがんでしまうことがある。裁断する前に布の歪みをできるだけまっすぐに整え、でき上がった後に縮まないよう、あらかじめアイロン等で処理をする。

(2) しるし付け

型紙を布に写す際のしるし付けは、型紙を布にまち針で止めてしるしを付ける。しるしが付けられない布地の場合には切りじつけを行う。

※ウール地の場合は、チャコペーパーは使用しない。

(3) 布地の裁断

地の目に沿って型紙を置き、型紙に沿って縫い代を正確に付けながらチャコと定規を使って線を引き、ロータリーカッターやはさみで裁断する。

※ロウチャコは主に紳士服で使われる。

(4) 縫製・アイロン

裁断した布地から、ミシンによる縫製、手の縫製、アイロン掛けを経て、平面な布地から 立体的な丸みを帯びたジャケットを製作していく。

[1] ミシン・アイロンの使い方

ミシンでは縫い代の始末、直線、直角、返し縫いなど、縫う部分によって縫い方を変える。縫い目を整える、縫い目を割る、見返しを表に返す、袖山などのいせ込みなど、こまめにアイロンを掛けることが作業のポイント。

[2] クセ取り

クセ取りは、縫いによっての地の目変化を型紙どおりに整える作業である。このクセ取 りを省略してしまうと立体的で着心地の良いジャケットができない。

[3] 身ごろ (プリンセスラインの縫製)

前・後ろ身ごろのプリンセスラインの縫製を美しく仕上げる。

[3]-1 表身ごろ

前身ごろ・後ろ身ごろ・見返しの縫製を綺麗に仕上げる。

[3]-2 ポケット

ポケットは中縫い仕立てにして、ポケットの丸みを左右均等に美しく仕上げる。

[3]-3 ボタンホール

ボタンホールは、普通はミシンを使うことが一般的であるが、玉縁穴は手作業でなければできないので、ホールの形状や縫い方、アイロンの掛け方など丁寧に仕上げることがポイント。

[3]-4 裏身ごろ

裏前身ごろと見返しの縫製を綺麗に仕上げる。

[4] 衿付け(衿元を浮かせたシャツカラー)

特元を浮かせたシャツカラーは左右を同寸で付けると下前の衿が短く見えるので、左右 均等でなく、下前の衿腰を少し出して仕上げる。

[5] 袖

袖山にいせ込みをするためにアイロンで落ち着かせ、袖を左右均等に美しく仕上げる。 仕様により、袖裏は手まつりする。

[6] 袖付けと肩パッドの取付け

袖が綺麗なラインで付いているか、いせが自然か、肩パッドの位置は良いかがポイント になる。

[7] 裾

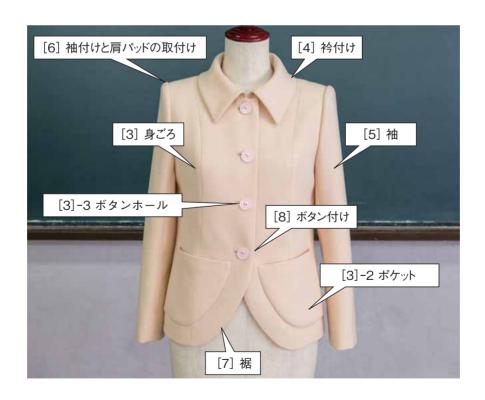
ポケットの丸みに沿った裾の大きなカーブを左右均等に美しく仕上げる。

[8] ボタン付け

ボタンをかけ合わせたとき落ち着くように、打ち合わせの布の厚み分の糸足をきちんと付ける。正しく付けないとすぐに緩み、落ちやすくなる。

(5) 仕上げ

アイロンを使って、小さなしわを伸ばし、最終の形作りをしていく技能。立体的に形を整 えアイロンを掛けていく。力の入れ方、押さえ方がポイントになる。



5 採点基準

以下に示す採点項目及び観点により採点が行われる。

なお、具体的な配点、採点方法、採点箇所、採点基準 (どれだけの誤差に対し何点の減点、またそれぞれの項目の重み付けなど) については公開されていない。そのため、採点項目、内容、配点について、本マニュアルのために作成した採点基準を示す。

(1) 採点項目及び配点

主な項目	主な観点	
シルエット	前面・背面・横面	
身ごろ	芯のはり方 前後プリンスラインの縫い方 見返し(見返しとカーブ身ごろなじみ) ボタンホールと位置・ボタン付け アウトポケット口のうき分量の見積もり方 裏の縫い方 等	
衿	上衿(表衿と裏衿とのなじみ) 全体のバランス 等	
袖	袖作り 袖の形状 袖付け 等	
手まつり	袖裏は手まつりにする	
糸くず及び汚れ		
全体の仕上げ		

(2) 採点方法

① 主観採点

採点項目		内容	得点
1. 競技課題採点		前面	
	シルエット	背面	
	シルエット	横面	
		小計	15
		芯のはり方	
		前後プリンスラインの縫い方	
		見返し(見返しとカーブ身ごろなじみ)	
	身ごろ	ボタンホールと位置・ボタン付け	
		アウトポケット口のうき分量の見積もり方	
		裏の縫い方 等	
		小計	40
		上衿 (表衿と裏衿とのなじみ)	
	衿	衿の付け方	
		全体のバランス 等	
		小計	20
		袖作り	
	袖	袖の形状	
		袖の付け方	
		小計	15
	手しごと	必要な箇所のまつり方	10
	糸くず及び汚れ		
	全体の仕上げ		
		合 計	100

② 客観採点

項目	パターンどおりの寸法の許容範囲	減点
袖丈	±5mm以上	3
着丈	±5mm以上	3
ポケット口	±3mm以上	3

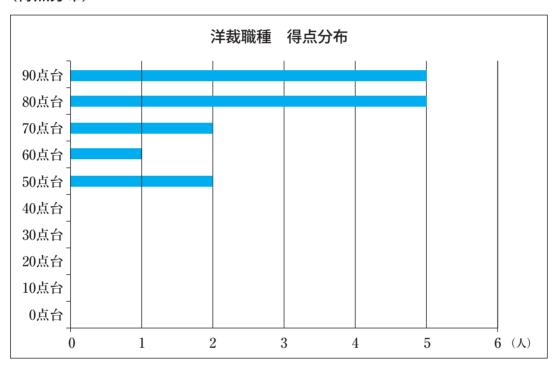
(3) 大会の成績結果

第51回技能五輪全国大会における競技結果の成績と得点分布を参考までに示す。

(成績)

大会での成績	人数(名)
金賞	1
銀賞	2
銅賞	2
敢闘賞	2

(得点分布)



6 技能習得のための訓練方法

競技課題を適切に実施するには、洋裁による作業方法及び各技能要素についてレベルアップした上で、課題対策を行っていくことが必要となる。

(1) 課題で必要になる技能要素

- ① しるし付け
- ② 布地の裁断
- ③ 縫製
- ④ 仕上げ

(2) 訓練のポイント

- ① 課題のポイントになるところを重点的に訓練していく。 今回は衿、前端、ポケット、ボタンホールについて基準を決めて、訓練をする。
- ② 接着芯の貼り方について、接着むらを出さないため、アイロンの掛け方の訓練をする。

(3) 課題への対応

① 裁断

縫い代の取り方、しるし付けの仕方、型紙の押さえ等の作業からロータリーカッター、 はさみを使って布地を裁断するまでの技能習得。

② 縫製

緩やかな曲線に縫製することで布地にふくらみを持たせる、左右対称に縫製する、正確 に速く縫製する等、さまざまな縫製技能が必要。

③ アイロン仕上げ

平面な布地をアイロンで軽く押さえて布地を伸ばしたり縮めたりすることで、布地に丸みを持たせる「クセ取り」、布地のクセをとることによって立体的なシルエット作りをする「いせ込み」など、アイロン掛けの技能習得。

(4) 競技時間内に課題を仕上げるためには

① ポイントになるところの重点訓練

テーラードカラーの付け方は度々行っているが、今回の競技課題で初めて衿元を浮かせたシャツカラーが出題された。そのため、バランスよく衿を付けることに留意し、加えてポケット付け、玉縁穴作製の練習を行った。

② 反復訓練の時間短縮

工程ごとに縫うより表や裏をまとめて縫っていくことで時間の短縮ができた。

③ 練習で失敗したところの訓練

練習で失敗した袖付けやアイロンなどを重点的に練習して競技当日に望んだ。

(5) 技能要素取得カリキュラム例

一定水準にある技能者(技能検定2級相当)が本課題の実施に向けて取り組む訓練カリキュラムの例を示す。

教科の細目	内 容	時間
1. 概要	製図、デザイン	5Н
2. 採寸	採寸、型紙の製作	7H
3. 布地の裁断	地直し、はさみ、ロータリーカッターの取扱い	4H
4. しるし付け	しるし付けの仕方	3Н
5. 縫製	手縫い・ミシン縫い、身ごろ、ポケット・衿付け・ 袖付け加工、ボタンホール・ボタン付け	20Н
6. 仕上げ	アイロンの取扱い	2H
7. 競技課題への取組	(1) 課題が求めている技能要素 (2) 各工程の考え方と作業手順	5Н
8. 課題実施演習による 検証と対策		5Н
9. まとめ	全体的な講評及び確認・評価	2H
	訓練時間計	53H

(6) 訓練方法例

入賞するために

入賞した先輩の作品を見て、良いところを見つけ真似していく。どのような作品が賞に入るか自然と分かってくる。作品を見比べて、自分はどの程度できているか理解することで、 技術レベルが分かるし、賞が取れるか判断できる。

課題が決まったらデザインの形を頭に入れる。工程ごとに時間配分を考えて訓練していく。

訓練のポイント

課題が公表されてから2ヶ月ぐらいしか訓練時間がないので、ポイントになるところ(衿、前端、ボタンホール)の基準を決める。

選手同士で競争させることで、ライバル意識を持たせる。

授業と平行して訓練をしていく。選手は休みの日を訓練にあてている。

トラブルの対応

練習訓練の時の失敗を多く重ねることで、競技大会では失敗も一人で対応できるように訓練している。

・講習会の参加

課題が決まったら、大会の2ヶ月~3ヶ月前に洋裁の業界団体主催の講習会(2日間)があり、そこで説明を受ける。課題の内容を元に、事前にパターンを作って、2着位試作をすることで疑問点など質問することができるようにしてから講習会に臨んでいる。

(7) 指導方法例

大会によって毎年課題が違うので、基礎(例えば部分縫いではポケットや衿の作り方、ミシンの掛け方、クセ取りなど)をしっかり行っている。最初は時間制限をしないで、確実に仕上げていく。それからスピードアップの訓練をする。失敗も練習では大事なことで、失敗しながらも縫い方をしっかり覚えていく。

技能面だけではなく、精神面においては、生徒それぞれ性格が違うので生徒に合った対応をしている。例えば、精神的に落ち込んだときは、休ませて、好きなことをさせたり、また一方では淡々として自分でモチベーションを維持できる選手は、見守っていたりなどして接していた。

大会を通して多くの作品を作ることで、生徒達は自分なりに自信もついたと思う。

7 課題の実施方法(作業手順)

(1) 準備



課題ポイント

競技時間(10時間)の作業配分を考え、与えられた競技課題の仕様を理解して作業を進めていく。仕様に合わせた工具類等の準備や手入れは常日頃怠らないことが重要である。

【工具類他】

① ミシン

ポータブル職業ミシン、ミシン針、ボビンケース、ボビンなど

② 工具類

アイロン (5号~6号)、人台 (標準体型の中寸)、大まん、袖まん、小うま、文鎮など

③ 型紙

前身ごろ、前脇、後ろ身ごろ、後ろ脇、見返し、表衿、裏衿、ポケット、外袖、内袖

④ 裁断・縫製に必要な用具類

裁ちばさみ、ものさし類(カーブ尺、定規、メジャー等)、筆記用具類(チャコ・鉛筆・ 消ゴム等)、糸類(ミシン糸、手縫い糸、しつけ糸等)、敷布・あて布、その他の道具(ル レット・縫針・目打ち・まち針・ステッチ定規・小ばさみ類・ドライバー・霧吹き等)









(2) 地直し (競技前日に作業を済ませる)



技能ポイント

熱や水分を与えることで収縮する布地の特性を生かして、布を仕上げる過程での布目のゆがみや耳のつれを、裁断の前に整える。



布地の表を内側にして、二つ折りして重ねて置き、しわを手のひらで押さえるように整える。裏側から布全体にむらなく霧をかけて湿らせ、ドライアイロンを掛けて湿気をとる。



布を引っ張りながら、裁ち目が直角になるように少しずつ伸ばす。横布目が縦布目と直角であるか、直角定規を





ゆがんでいる場合、ゆがんでいる方向とは逆方向に布を 軽く引っ張りながらアイロンで整える。

POINT

耳がつれている場合は切り込みを入れる。耳の切り込みを横に入れると、引っ張ったときに布地が裂けることがあるので注意する。





裏地 (キュプラ) はすべりやすいため、縦線 (耳)、横線にまち針を打ち、ズレを直して、アイロンで整える。



(3) しるし付け



技能ポイント

型紙を布にまち針で止め、チャコでしるしを付ける。しるしが付けられない布地の場合は切りじつけを 行う。

[1] 型紙の置き方



ジャケットを作るのに必要な型紙を、地直しした生地に 並べて置く。型紙は中心に置き、耳に置かない。 縫い代幅を確認する。



型紙の矢印と縦地の布目線(縦糸の方向)を平行に合わせて、一方向に配列する。

POINT

型紙の置き方

- 1. 文鎮とまち針を使ってズレを防ぐ。
- 2. まち針は切るときに邪魔にならないように止める。



布に型紙を置いたら、まち針で止める。



POINT

まち針の止め方

- 1. 抜く方向が利き手側になるように止める。
- 2. 縫い線に対して垂直に止める。
- 3. 止める順番は端(縫いはじめ)→端(縫い終わり)
 →中央
- 4. 曲線の場合も縫い線に対して垂直に打つ。カーブ部分は間隔を短めに止める。

[2] 縫い代の付け方

[2]-1 表地のしるし付け



型紙にまち針を打ち、縫い代を付けていく。型紙の矢印と縦地の布目線(縦糸の方向)を平行に合わせて、一方向に配列する。



脇や肩などは最低でも1cm、裾は3~4cm付ける。袖口の裾の場合は折り返した時に不足しないように縫い代を付ける。

POINT

衿ぐりや脇の袖付け部分は型紙のラインと平行に縫い代を付けると縫ったときに不足するので気をつける。



	縫い代		縫い代
背中心	1.5cm	裾	4.0cm
脇	1.5cm	袖口	4.0cm
衿ぐり	1.0cm	袖下	1.5cm
袖ぐり	1.2cm	身ごろ袖ぐり	1.2cm
プリンセスライン	1.2cm	外袖	1.5cm
前端	1.0cm		



ポイント位置を決め定規をあて、しるし付けをする。







各パターンに決められた縫い代を付けていく。







衿は粗裁ちするために、大きめにしるし付けをする。

POINT

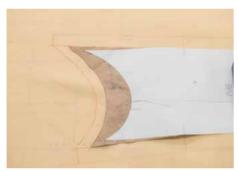
- 1. しるしは必ず「隠れる位置」に付ける。
- 2. 合いじるしにノッチ(切り込み)を入れる。
- 3. ポケットの位置、縫い止まり、合わせの位置などにしるしを付ける。
- 4. チャコを使えない場合は切りじつけする。

[2]-2 裏地のしるし付け



裏地の配置

裏地はキセ分が必要なので、キセの確認をする。 (背中心1cm、その他は2~3mm)



袖ぐり下の裏地は、立ち上がり部分のゆとりを付ける。 (縫い代の2倍+縫い代)





POINT

袖ぐり下は、縫い代を立てたまま裏袖でくるむよう にまつるので、内袖縫い代は多く必要となる。

(4) 布地の裁断



技能ポイント

付けたしるしに沿って丁寧に裁断する。ロータリーカッターやはさみで裁断する場合、布地の位置、型紙の置き方に注意して裁断する。特に、全面芯貼りをするところは型紙より大きく粗く裁断し、後で正確に裁ち直す。

[1] 表地の裁断

[1]-1 表地の裁断



しるし付けを終えた表地。 全部の型紙の縫い代の確認をして裁断する。



布地は置いたまま、自分が切りやすい位置、角度に移動して切る。

切りにくくなったら、布を動かすのではなく、自分が布 のまわりを動く (競技時は、自分の作業エリア内だけで 動く)。



裁ちばさみで裁断。布のズレを防ぐために型紙をしっかりと押さえて、布を動かさずにはさみの方向を変える。



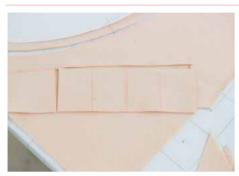
POINT



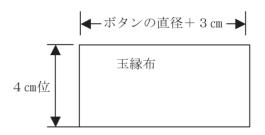
- 1. 布は持ち上げない/動かさない。裁ちばさみの 刃先を浮かせない。
- 2. 縫い代に段差が出やすくなるので、はさみの刃は最後まで閉じきらない。
- 3. 直線ははさみの刃の中央で裁断し、曲線は刃先 2~3cmのところで裁断する。



表衿は1cm、裏衿には1cmよりやや多めの縫い代を付けて 裁断する(粗裁ち)。裏衿は、裏側に接着芯を貼ってか ら裁断し、しるしを付ける。



ボタンホールを作るときの布 (玉縁布) を裁断する。 玉縁布は普通バイアスに裁断するが、布によって表布と 同じ布目にする場合がある。





袖の裁断。

縫い代に気をつけながら裁断する。

POINT

脇の袖付け部分は型紙のラインと平行に縫い代を付けると、縫ったときに不足するので気をつける。

[1]-2 ノッチと切りじつけ(裁断後)



合いじるしにノッチ (2~3mm) を入れる。





前身ごろの前端線、ボタン付け位置、ポケット位置付け に切りじつけをする。 針は斜めに刺さない でまっすぐ落とす。





生地と生地の間の糸を、糸端を長めに残して切る。



[2] 裏地の裁断

[2]-1 裏地の裁断



型紙の上に文鎮を載せて裁断していく。



袖の裏地は、袖ぐり下の縫い代を包むためのゆとり (2.5cm) を考慮して裁断していく。



1



前身ごろ、後ろ身ごろを裁断する。





裁断した生地 (前身ごろ、後ろ身ごろ、袖、ポケット)。

左右間違えないよう に、重ねてまち針で 押さえて置く。



[2]-2 キセのしるし付け(裁断後)



背中心にキセのしるし付けをする。



[3] 接着芯の貼付け

[3]-1 芯の裁断



芯の指示が入っている型紙を置き、芯を作製していく。

POINT

- 1. 型紙を再び合わせて、型紙どおりに裁断する。
- 2. 衿は、表布と接着芯を粗裁ちする。



文鎮を置き、まち針で止めていく。





縫い代をしるし付けする。





表地より少し小さめに裁断していく。玉縁布の接着芯も 裁断する。





[3]-2 接着芯の貼り方

表地の裏と接着芯の接着面を合わせ、接着芯の上からハトロン紙を載せてアイロンを掛ける。余熱があるうちは布をたたんだり動かしたりしないようにする。

ア. 表地に接着芯を貼る



芯は、シルエットを保つためと補強のために貼る。 前身ごろ、脇身ごろ、背中心、ポケットは全面芯、袖ぐり、裾などは一部分芯貼り。



接着芯は表地からはみ出さないように、裁断した生地より

気持ち小さく裁断して 貼る。





縫い代のまわりに軽くアイロンを掛けた後、ハトロン紙 を載せてアイロンを掛けていく。

POINT

アイロンはすべらさ ず、軽く 10 秒ずつ 載せる感じで貼っ ていく。





再度アイロンで押さえていく。生地にアイロンの型が付かないように注意する。

POINT

接着の条件が揃うことで正しく接着される。

- 1. 貼る時の温度(樹脂を溶かす)
- 2. 圧力(樹脂を表面にしみ込ませる)
- 3. 時間(温度と圧力の効果を上げる)



前脇身ごろ、裾、後裾、後肩、袖ぐりに接着芯を貼っていく。







粗裁ちした衿に接着芯を貼ってから、型紙を載せ、しる し付けをする。





縫い代を整理し、合いじるしを付ける。





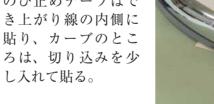
前衿腰の高さが左右違うので注意して裁断する。



イ. のび止めテープ貼り



接着芯を貼った後、のび止めテープを貼る。 のび止めテープはで







カーブの深いところはテープ幅の半分を切り貼っていく。前端から裾にかけて

前端から裾にかけて は平らに貼る。





型紙を置き、テープを貼る位置にしるし付けして、のび 止めテープを貼る。

- ・前肩
- ・前袖ぐり
- ・後袖ぐり
- ・衿ぐり



クセ取りした前肩は型くずれしないように、のび止め テープをでき上がりより2mm位内側に貼る。



うまに衿を載せ、テープに切り込みを入れ、クセ取りの 位置に貼る。



でき上がり線より2mm位内側に貼る。



接着芯、のび止めテープの接着を終えたところ。

[4] クセ取り

クセ取りは、縫製による地の目の変化を型紙どおりに整える作業である。このクセ取りを省略してしまうと、立体的で着心地の良いジャケットができない。



前身ごろ、後ろ身ごろのウエストライン、外袖は追い込み、前袖は追い出しのクセ取りを行う。

布を中表に合わせ湿気を与え、両面からアイロンでクセ 取りする。その後湿気を除去して形を整える。



カーブを直線にする気持ちで引き出しながらアイロンを掛けていく。



ウエストの絞りは縫い代のつれを防ぐため、左手でウエスト位置を引き出してアイロンを斜めに使う。ウエスト

付近を直線状にする。



後ろ身ごろのクセ取り。後中心線が直線状になるように 左手で向こう側に引く。

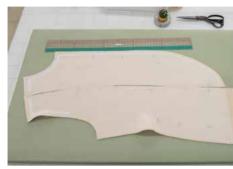








後ろ身ごろのクセ取りを終えたところ。



同様に前身ごろ、袖口のクセ取りをする。



(5) 縫製・アイロン



課題ポイント

裁断した布地をミシンや手で縫製し、アイロンを使って、平面な布地から立体的な丸みを帯びたジャケットを製作していく。ポケット、衿や袖などそれぞれ異なる丸みを左右均等に美しく仕上げるのがポイント。ここでは、前・後ろ身ごろのプリンセスライン、ポケット付け、袖付け、衿付け、肩パッド付け、ボタンホール、ボタン付けを行う。

[1] ミシン加工



針の落ちる位置と自分の身体の中心を合わせて、ミシン の前に座る。

布に手をあて、向こう側の手は押し気味にする。 ミシンの速度よりも早く布を引かない。



糸を後に送り、押さえ金を降ろし、返し縫いをして、ま ち針を抜きながら縫い進める。最後、返し縫いをする。

POINT

手前と向こう側の布を引いて、布をピンと張る。2 枚の布がぴたっとくっついたまま進むことになり、 上の布がたるむことはなくなる。

[2] アイロン掛け



アイロンを使っての基本作業。端々をアイロンで押さえて形を整える。

POINT

布地に合った温度にし、アイロンを掛ける部分を平 らにする。綿と麻素材以外の布地にはあて布をする。

[2]-1 直線の縫い代を開く



一度縫ったそのままの状態でアイロンを掛け、指で縫い 代を開きながらアイロンの先を使って開く。

POINT

縫い代が落ち着かない場合は、縫い代に少々の水を つけて、アイロンを掛ける。

[2]-2 曲線の縫い代を開く



カーブがきつくて、開いても縫い代がつれる場合は、縫

い代に切り込みを入 れてから、アイロン の先を使って開く。



[3] 身ごろ(プリンセスラインの縫製)

前後ろ身ごろのプリンセスラインの縫製を美しく仕上げる。

[3]-1 前身ごろと後ろ身ごろ



脇身ごろ。





前身ごろと脇身ごろを中表に合わせて、縫い代の位置に まち針を直角に止める。





曲線ではズレないようにまち針で止めていく。

POINT

曲線はズレやすい ので、しつけを掛 けると縫いやすい。





背中心を縫う。ミシンの押さえがあたらないところでま ち針を抜く。

POINT

2枚の布がズレないように、布の間に指を入れ下の布を引くように縫っていく。





ミシンのステッチ定規の1.2cmの位置に布の端を合わせて、

切り替え線を縫う。 縫い始めと縫い終わり は返し縫いをする。





前身ごろを縫う。





水で濡らした指を縫い目に付け、アイロンを掛ける。 袖まんで押さえると縫い代が落ち着く。





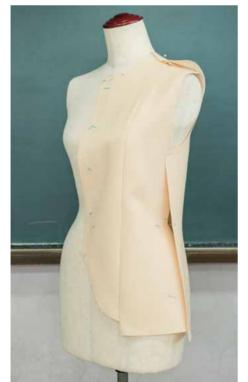


縫い代の必要でないところはカットする。

POINT

重なる余分な縫い 代は、カットすると きれいに仕上がる。





シルエットの確認。 人台で前身ごろ、後ろ身ごろのバランスを見る。





[3]-2 ポケット(中縫い)



技能ポイント

ポケットは中縫い仕立てにして、裾の大きなカーブ に沿ったポケットの丸みを左右均等に美しく仕上げ る。

ア. ポケット作製



プレスボールの上に前身ごろを置き、体の丸みを考えな がらポケットの裏地を まち針で止める。

裏地のポケット口から少し手を入れてウ キ分をつくる。



ポケット裏地をでき上がりの状態に折り、折から5mm位の 位置にしつけを付ける。



しつけの外側に沿ってミシンを掛ける。縫いつけたらしつけを取る。





ポケット口2cmを外側に折り込む。 ポケット裏地まわりを、 外側に倒す。





イ. ポケット付け



表地ポケット丸味部の外まわりをぐし縫いして、糸を引きながら型作りをする。



まわりを折り、アイロンで押さえる。

POINT

厚紙を使ってアイロンを掛けると、丸味がきれいに つき、作業が早い。



角をきちんと折り、アイロンを掛け、形を作る。



ポケット口の余分な縫い代をカットする。











合いじるしに合わせ、まち針を打つ。



ポケットの内側にミシンを掛ける。脇側から先にミシンを掛ける。



ポケット口のウキ分を確認し、裾のラインとの距離を確認してまち針を打つ。



ポケット腰まわりのウキ分を確認する。



表ポケットを身ごろにまつり付ける。縫い目が表から見

えないように流しま つりで縫う (巻きじ つけはミシンを掛け た後はずす)。





ポケット口にまち針を打ち、ズレないようにして内側をミシンで縫っていく。

POINT

ミシンの掛け方に 注意する。スピード を落とし、他の布 を縫いつけないよ うにする。



裏ポケット口の縫い代を内側に折り込み、まち針で止める。



裏ポケット口の裏地位置をものさしで確認して、表ポケットに裏地をまつり付け ■

る。





ポケット内側をアイロンで整える。ポケット全体をうま に載せて、ウキ分をくずさないようにして、あて布をし てアイロンを掛ける。



ポケット口のウキ分、止め口の確認をする。

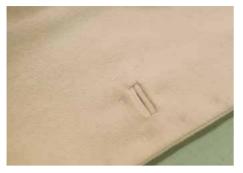






ポケット付けを終えたところ。

[3]-3 ボタンホール(玉縁穴)



技能ポイント

ボタンホールの作製ではミシンを使うことが一般的であるが、玉縁穴は手作業でなければできない。ボタンホールの形状や縫い方、アイロンの掛け方など丁寧に仕上げることが重要なポイントになる。



ボタンホールの数だけ玉縁布を用意する。接着芯側から

ボタンホールのスケッチをする。スケッチが 穴の形になるので、曲 がらないようしっかり 描く。

玉縁穴(ボタン直径+ 厚み分)

玉縁幅 (4~5mm)





右前身頃のボタンホール位置を確認し、玉縁布をズレないようにしつけ糸で縫い止める。







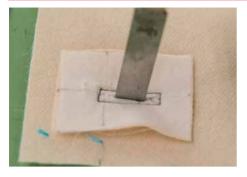
スケッチの上をなぞってミシンをかける。ミシンの縫い巾は1mmに調整する。まわりを1周して、最後は少し重ねて縫う。



針の目を数えて幅を決めていく。

両端の針目の数を合わせて縫ったら玉縁の幅がきれいになる。





矢羽根形に切り込みを入れる。はさみで切り込みを入れ、

切り込みの端はミシン 糸を切らないようにミ シンの角ギリギリを狙 う。



玉縁布を表に返す。





短辺から出ている布片を引っ張り、服地の表が少し見え るくらいの状態で水をつけ、アイロンをあてる。



今度は玉縁口を閉めるようにアイロンをあてる。あてる のは口の両端だけ。



このままでは玉縁幅の厚みが不安定なので、手縫いで仮 縫いして固定する。





ミシンで本縫いしていく。服地と玉縁布の境を縫い付けて、玉縁の両端をミシンで止める。(2~3回)



玉縁布の余分をカットする。



玉縁布の縫い代を縫い、玉縁布の形状をはさみで整える。





目打ちで形を整えてボタンホールのでき上がり。口は少 し開ける。

[3]-4 裏身ごろ



裏後ろ身ごろと裏脇身ごろを中表に合わせてまち針で止め、切り替え線を縫う。



裏後ろ身ごろを中表に合わせ、後ろ中心線の裏地を、目打ちでおさえながら縫う。後ろ身ごろは上半身のキセ分を多くする。背中心のバックネックポイント(後ろ衿ぐりの中

心点) $2\sim3$ cm下から ウエストラインまでは 1cm位、その他は $2\sim3$ mmのキセ分にし、で き上がりの外側を縫 う。





裏前身ごろと見返しを中表に合わせてまち針でとめ、見返

し線をミシンで縫う。 裏地を上にする。裾上 がり2cmは縫わない。





縫い代を後ろ身ごろ側に倒し、アイロンを掛ける。

裏地の縫い代は割らないで片倒しにする。





軽くアイロンで押さえる。







裏肩線を縫う。

サイドネックポイント (肩線と衿ぐりの交点) ではしるしたり5mm生から返し終

より5mm先から返し縫いをする。肩先は縫い代まで縫う。





裏肩線の縫い代を後ろ身ごろに倒し、アイロンを掛ける。



[3]-5 後ろ中心



後ろ身ごろを中表に合わせ、まち針で止めて後ろ中心を 縫っていく。縫い終わりは返し縫いをする。 縫い終えたらアイロンで押さえる。



縫い合わせたら後ろ中心の縫い代をアイロンで開く。



クセ取りしながらアイロンを丁寧に掛ける。





[3]-6 肩線



表肩の合いじるしを合わせ、まち針で止める。

前肩と後ろ肩の縫い目を合わせる。





まち針から肩線まで縫う。







サイドネックポイントではしるしから5mmから返し縫いをし、肩先に向かって縫い代まで縫う。



余分な縫い代をカットする。

POINT

縫い代をカットする ことで肩線がスッキ リし、薄く仕上がる。



[4] 衿付け



技能ポイント

衿腰(首に沿って立っている部分)の高さ、前衿付け位置のバランスを考え、衿の丸みを綺麗にする。

[4]-1 衿のクセ取り



左右の裏衿をミシン掛けした後、余分な縫い代をカット する。



衿をしっかり立てるため、芯を貼った裏衿の衿腰部分に、 2重に芯を貼る。(増し芯)







袖まんに衿を載せアイロンでクセ取りをする。





増し芯をした裏衿腰線にミシンを掛ける。





[4]-2 衿付け

ア. 表衿付け



裏身ごろに表衿を中表に付ける。 アイロンで形を整える。



前中心からまち針を打ち、両側にまち針を等間隔に止める。



まち針で止めたところにしつけをし、しつけの外ぎわ(1mm位)にミシンを掛ける。



身ごろ衿ぐりのカーブが強い所に少しずつ切り込みを入





アイロンで衿の形を整える。





イ. 裏衿付け



表身ごろの上に、中表にして裏衿を載せる。左衿だけ、 しるしより4mm縫い代

しるしより4mm縫い代側に出し、合いじるしを合わせ、つながりよくまち針で止める。



衿付けでき上がりに沿ってミシンを掛ける。











余分な縫い代をカットする。





縫い付けたミシン目の3mm手前にはさみで切り込みを入れ、衿の形を整える。





衿付け止まりから3cmの所で切り込みを入れて、縫い代を身ごろに倒す。





表衿、裏衿の付け線にクセ取りしながらアイロンを掛ける。





POINT

深く切り込みを入れると衿の形がくずれるので注意 する。



身ごろの衿ぐりの形を見てアイロンを掛ける。



身ごろに付けた裏衿。



[4]-3 衿外回り



表衿のゆとり分を確かめ、まち針で止める。



身ごろ、前中心と衿付け止まりの位置を正確に合わせる。





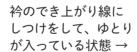
見返しを2mm引き出し、まち針で止める。







裏側のでき上がり線に沿ってしつけをする。丸みを出すところなので、丸みがきれいに出るようにする。







衿外回りのでき上がり線にミシンを掛ける。





衿外回りにミシンを掛けたところ。





[4]-4 前端



衿付け止まりにまち針を打つ。





裾線に沿って、まち針を等間隔に打ち、でき上がりに沿ってしつけをしていく。



しつけした前端2mm外側にミシンを掛ける。











前端の縫い代は、キセを掛けないのでいったん割っておく。



見返し裾の縫い代を5mm切り取り、幅を狭くする。



前端の縫い代は差をつける。



裾の縫い代にぐし縫いをしてカーブをつくる。



型紙に沿ってアイロンで折っていく。



[4]-5 衿づくり



衿外回りの縫い代を裏衿からアイロンで割る。







余分な縫い代をカットする。 衿外回りの縫い代幅 は、表と裏で差を付け る。





衿先の縫い代をカットする。



衿先をアイロンで折り、文鎮を載せて形をつくる。





ひっくり返した衿の角を目打ち等で整える。折った角を

外側に広げるように して、綺麗な上がり 線にしていく。

POINT

目打ちをする場合、 裏衿から刺す。表 衿をキズつけない ように注意する。







前身ごろが見返し側に1mm被るようにアイロンを掛ける。



前中心と前衿腰の立ち上がり。





[4]-6 衿中とじ





しつけをして、しつけ糸2本取りで衿付け縫い代を中とじする。

[4]-7 裾縫い、脇中とじ



後ろ身ごろと裏身ごろの裾を合わせ、まち針を打っていく。







裁ち目から1cmの所にミシンを掛ける。







両脇の中とじは、しつけ糸2本でゆるくとじる。裏身ごろの裾を折り、まち針で止め、しつけをする。







表裾をでき上がりに折りあげ、返し針で止める。







アイロンで裾から2cmの所で裏布にアイロンを掛ける。 キセ分量は1cmとする。





[5] 袖



技能ポイント

袖山のいせをよせるためにアイロンで落ち着かせる。いせを入れすぎるとギャザーが入ったようになり、汚く見えるので注意する。(前袖下をクセ取りする)

[5]-1 表袖



裁断してクセ取りをした袖の表地。



外袖と内袖を中表に合わせて、袖下線をまち針で止め、 ミシンで縫っていく。



POINT

ミシン目がつらないように内袖は手前に引きながら縫う。





袖下線の縫い代をアイロンで開く。クセ取りしてあると 外袖と内袖がなじむ。



袖口を折る。 4cm上がりに、クセ取 りしながら折る。





外袖をまち針で止め、ミシンを掛ける。アイロンで縫い 代を開く。







袖口まわりをしつけして返し縫いで止める。



[5]-2 裏袖



裁断した外袖、内袖の裏地を中表に合わせまち針で止める。



裏袖の袖下線をミシンで縫っていく。





ミシンで縫い代を倒す。2~3mmキセを入れて外袖に片倒しする。







裏袖口を2cm折り、アイロンを掛け、形を整える。



[5]-3 表袖と裏袖の合わせ(中とじ)



表袖、裏袖の内袖のしるしを合わせて袖口から8cm、袖ぐりから8cm位の中間をしつけ糸2本で中とじ

する。







表袖山にぐし縫いをする。





裏袖山は8mm折り、ぐし縫いをしておく。





裏内袖下の部分に切り込みを入れ、アイロンで落ち着かせる。



[5]-4 袖裏の手まつり



裏袖口を二つ折りにしてまち針で止め、手縫いでまつり 付ける。



袖口まつりを終えたところ。

POINT

縫い目が直線になるようにする。糸は引きすぎないようにする。

[5]-5 袖山のいせ込み



袖山でいせを寄せる。粗い針目のミシン糸を引き、丸み を作っていく。

POINT

ギャザーにならな いように少しずつ 糸を引く。



(1.5cm位の高さ) いせて形を整える。



いせ分量を確認して袖付けのすわりを確認する。

縫い代にアイロンを掛けて、いせ込みを確認する。







袖をうまに載せ、袖山のぐし縫いの糸を引く。いせをきれいに落ち着かせるために、縫い代をアイロンのこばできれいにつぶす。



身ごろの裏側から袖を出し、袖ぐり線と袖付け線を合わせる。

身ごろの肩線と袖の合いじるしを合わせ、まち針で止める。

POINT

左右の袖を間違えて付けないように、表袖に「目印布」 を付けておく。



まち針を止めてしつけをする。







袖側からミシンを掛ける。ミシンを掛けた後、しつけを 取っていく。



アイロンでいせ込みをきれいにつぶす。

[6] 袖付けと肩パッドの取付け



技能ポイント

袖がきれいなラインで付いているか、いせが自然か、肩パッドの位置は良いかが作業のポイントになる。 左右のバランスが取れているかも重要である。

[6]-1 袖山布の付け方

袖山の部分には「袖山布」を入れると、いせが落ち着いてきれいな袖付けになる。



袖山布は残布のバイヤスを使い、クセ取りして取り付ける。



袖山布の角を丸くカットする。

[6]-2 肩パッド取付け



人台の上で肩パッドを肩先で1~1.5cm出して置き、表側から肩とのなじみ具合を確認して、まち針で止める。



肩パッドを肩線の縫い代に軽く止める。

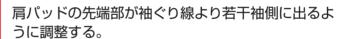
POINT



肩パッドには左右の区別があるので注意する。(前後の長さに違いがある。)

肩パッドの厚みをつぶさないように注意して、袖ぐりの 縫い代に縫い付ける。

POINT



[6]-3 袖付け



まち針で肩山と袖を止める。



袖付けに落としじつけをする。



POINT

センターについているか、袖がきれいなラインでついているか、いせが自然かを確かめる。



裏返しにして、落としじつけを確認する。



肩パッドの頂点を肩線の縫い代に縫い付ける。





使ったまち針を取り除いたか確認する。





袖付けを終えたところ。



[6]-4 袖ぐりの中とじ



表裏の袖ぐりをなじませて、縫い代にまち針を止める。



しつけ糸2本どりで縫い代から5mm位の所を返し縫いで中とじする。



袖の裏地を引き出し、袖と身ごろのしるしを合わせ、まち針で止める。袖を身ごろにまつり付ける。



袖ぐりをまつる。

POINT

表地に縫い目が出ないように注意する。

[7] 裾線まつり



技能ポイント

ポケットの丸みに沿った裾の大きなカーブを左右均 等に美しく仕上げる。



裾まつりするためにまち針で止めていく。 見返し奥の下端部分を千鳥まつりする。





前端を星止めする。表に糸が出ないようにする。

[8] 見返しのボタンホール(玉縁穴まつり)



前身ごろから待ち針で玉縁穴を止め、まわりにしつけをする。



前身ごろから見返しにボタンホールの切り込みを入れる。 切り込みを入れたとこ ろに、はさみで再度切 り込みを入れる。両端 を矢羽形に切る。



切り口を内側に折り込み、まつり縫いをする。





ボタンホールの仕上がり。

[9] ボタン付け



技能ポイント

ボタンをかけ合わせたとき落ち着くように、打ち合わせ(左右の身頃が重なったあきのこと)の布の厚み 分の糸足を付ける。



ボタンホール (玉縁穴) のある右前身ごろを上にして、衿ぐ

り線、前端線、裾線を 合わせ、まち針を打つ。 まち針で止めたまま、 玉縁穴の中心の真下 になる左前身ごろに切 りじつけする。





切りじつけの位置に、ボタンを付ける。 ボタン付けの糸足を決めて2~3回とおす。



3~5回根巻きをし、ボタンが立つようにする。巻いた糸が

ゆるまないように止める。



根巻きを作る際、 きつめに巻きすぎ ると生地がよれて しまうので微妙な 力加減に注意する。





糸足に2~3回刺しとおす。

POINT

巻き付ける時は親指と人差し指でボタンを持ち上 げるように持ち、上から下へ並べて巻きつける。



ボタンを付けた終わりの糸を玉止めする。



結び玉を布の間に引き込み、糸を切る。



根巻きをしたボタン。

(6) 仕上げ



技能ポイント

アイロンを使って、生地が波打っているところを整え、小さなしわを伸ばしていく。最終の形作りをしていく。

表地、裏地のアイロン掛けでは必ずあて布をあてる。

[1] 衿の仕上げ



裏側から衿の形を見て衿先から中心に向かってアイロンを掛ける。

表も同様にする。



うまの丸味を利用して、ローリングしながら、あて布を あててアイロンを掛ける。







アイロンを掛けた後、人台で確認する。

[2] 袖の仕上げ



袖下の縫い目で2つに折って、全体の形を整える。袖下 の縫い目を袖口から袖付け方向にアイロンを掛け、袖山 に折り目が付かないように、掛け残したところにアイロ ンを掛ける。



アイロン掛けには袖まんなどを使い、折り目やしわが付かないように注意する。







折り目やしわがないか確認する。

[3] 身ごろの仕上げ



あて布を湿らせ、裏地にアイロンを掛ける。



前身ごろでは、前端と平行にアイロンを置き、前端、裾 にアイロンを掛ける。



後ろ身ごろでは、全体のしわを手で伸ばして、アイロンを ゆっくり動かして掛け

る。





衿腰、肩線にアイロンを掛ける。



[4] 全体の仕上げ



人台に着せて、袖、身ごろ、衿、裾の全体の確認をする。







課題ジャケットの完成。

名 期待される取組の成果

和洋学園専門学校では技能指導を重点的に行っており、生徒それぞれのレベルにあった様々な 検定試験(ファッションビジネス検定、洋裁技術検定など)を積極的に受けさせることで、その 年次で学ぶべき技術を短期間で集中して研鑽できるようにしている。

技能五輪全国大会のような競技会の訓練では、生徒は県内や全国で比較して自分の技能がどの レベルにあるかを知り、他の選手と競うことで良い勉強ができる。さらに、生徒一人一人の能力 を最大限に伸ばすため、知識と技能を個別に教授し、連続して競技会に出場し入賞させることで、 競技会での仲間の活躍を生徒たちに知ってもらうことができると考えている。

選抜された生徒は授業と競技会向け訓練を平行してこなし、足りない技能は休日を訓練にあてて習得している。また、大会時に審査員がチェックすると想定されるポイントを指導者が具体的に示し、弱点の反復練習を行うことで、クセ取りやいせ込みなど、入賞に必要となる高度な技能を習得できる。こうしたやりとりの中で、指導者も作品評価や指導方法のノウハウを蓄積することができる。

生徒は、毎年の競技会を見据えた技術研鑽を積むことで、自分の技能レベルで最も研鑽が必要となる要素を常に意識することができる。また、入賞した先輩の作品を見て、どのような作品が賞に入るかを学び、良いところを見つけては真似し、自分の作品を見比べて何がどの程度できているか、ポイントをきちんと理解しているかなどを考えながら、これらを実現するための訓練を行っている。

競技会では、あらかじめ決められた競技時間の中での仕立てとなるので、如何に効率的な段取りを組むか、限られた時間内で少しでも出来栄えを良くするにはどう工夫すべきか、ミスやトラブルが発生した際にどのように対処すべきかを常に考え競技に臨むようにしている。

生徒は競技会を通して技能面だけでなく、精神面においても成長する。競技会までのモチベーションを維持し続けるために、指導に際しては、生徒の個性や性格の違いに合った対応を常に心がけている。



和洋学園専門学校 倉岡 妙子 校長



和洋学園専門学校 白石 律子 先生



第51回技能五輪全国大会 金賞受賞 上中 麻見さん



第51回技能五輪全国大会 銀賞受賞 古閑 端葉さん

巻 末 資 料

競技課題

公 表

第51回技能五輪全国大会

「洋裁」職種競技課題

与えられた支給材料により仕様に基づいて、競技課題図のようなスーツの上着を作成しなさい。

1. 競技時間

10 時間 (1 日目 7 時間 ・ 2 日目 3 時間)

2. 支給材料 (材料及び型紙)

(1) 表 地 : ウール地 1.5m

(2) 裏 地: キュプラ1.3m(3) 接着芯:1m

(4) ミシン糸 ・ 手縫い糸 ・ 穴糸

釦 (2.2cm 4個)

肩パッド 厚み 1cm 1組

(5) テープ : 1cm 幅 3m

(6) 型紙 :縫い代なし、出来上がり寸法

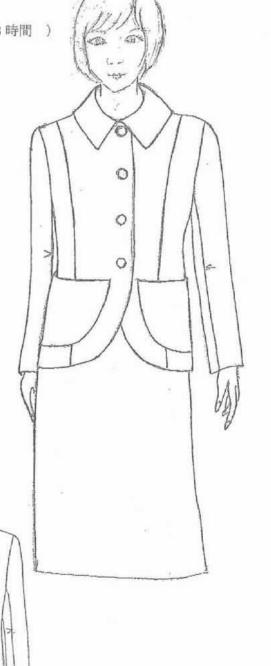
3. 仕 様

(1) 上衣は与えられた人台にフィット するように製作する。但し、 人台は同一形である。

- (2) ボタンホールは、玉縁穴とする。
- (3) 袖裏は手まつりとする。
- (4) その他は、ミシン仕上げとする。
- (5) ポケットは 中縫い仕立てとする。
- (6) 残布は、自由に使用して良い。
- (7) 糸通しは、競技時間内に行うこと。

4. 注意事項

選手間の工具類等の貸借は認めない



公 表

第 51 回技能五輪全国大会 「洋裁」職種持参工具一覧表

66	3	名	規	格数	量	備考
は	さ	み	裁断用	適	宜	カッター使用の場合は、 ビニール板を用意する事
物	指	類	カーブ尺・メジャー	等・定規 適	宜	
その	の他の用	具	ルレット・縫針・目: ピン針・ステッチ定: 小ばさみ類・ドライ: 霧吹き・等	規・適	宜	鉄マンを使用したい場合は 持参してもよい。
筆	記用具	類	チャコ・鉛筆・消ゴ	ム・等 適	宜	チャコペーパー使用可
糸		類	しつけ糸	適	宜	糸通しは競技開始後とする
敷ィ	布・あて	布	使い慣れたもの	適	宜	

- (注) 1. 会場に準備してあるもの以外は貸出さない。
 - 2. 選手間の工具類等の貸借は認めない。

公 表

第 51 回技能五輪全国大会

「洋裁」職種競技会場設備基準

設	(ii	崩	0	名	称				
区		分	品		名	寸 法 又は 規 格	数	量	備考
設	備	類	作	業	台	180 cm×90 cm 180 cm×45 cm (ミシン用)		台台	1人1台
機	械	類	111	シ	ン	ポータブル 職業用ミシン	1	台	ボビンケース ボビン 2個 ミシン針付き 付属工具なし
工具	類	ア	イロ	ン	5号 ~ 6号	1	台	水入れ及び水刷毛付き	
		人		台	標準体型の中寸	1	台	バスト 83 cm ウエスト 63 cm ヒップ 88 cm	
			大	ま	ん		1	個	
			袖	ま	h		1	個	
			小	j	ま		1	個	鉄まんを持参しても良 い
			文		鎮		3	個	持参しても良い

- (注) 1. 会場に準備してあるもの以外は貸出さない。
 - 2. 選手間の工具類等の貸借は認めない。

公 表

第 51 回技能五輪全国大会

「洋裁」職種 採点項目及び観点

主な採点項目及び主な観点は、次のとおりとする。

主な項目	主な観点
シルエット	前面 · 背面 · 横面
身ごろ	芯のはり方 前後プリンセスラインの縫い方 見返し(見返しとカーブ身頃のなじみ) ボタンホールと位置・ボタン付け アウトポケットロのうき分量の見積もり方 裏の縫い方 等
えり	上衿 (表衿と裏衿とのなじみ) 全体のバランス 等
そで	そで作り そでの形状 そで付け 等
手まつり	そで裏は手まつりにする。
糸くず及び汚れ	
全体の仕上げ	

